

Via Latina 22



総本部よりのお知らせ—マリア会

インド：初誓願式

232号
2014年 5月

“生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。”(ガラ2・20)



修練院聖堂：Bros. Anbu and Casimeer. (その後ろに Frs. Jack McGrath, Dave Fleming and Kip Stander.)

マリアニスト家族（信徒マリアニスト (MLC)、マリアニスト・シスターズ (FMI)、マリア会 (SM)) は労働者聖ヨゼフの祝日にインド、ジャルカンド州、ラーンチーのニーマルデーブ修練院に集まり T.Arul (Anbu) 士と Joe Antony (Casimeer) 士の初誓願を祝いました。この日のために彼らが選んだテーマは、聖パウロのガラテヤ人に宛てた手紙の一節、“生きているのは、もはやわたし

ではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです” (ガラ2・20) でした。家族と友人たちは、マリアニスト家族のメンバーと共に神を賛美し、マリアの使命への奉仕にその生涯を捧げる若者たちを励ますために、この誓願式に参列しました。

地区長の Augustus Surin 士が彼らの誓願を受け入れました。Dave Fleming 師が式を執り行い Ignase Arulappen 師が説教をしました。Chinnaiah Polishetty 師が誓願式の式長であり、聖歌隊は修練者の Suman Horo が指揮しました。聖歌はヒンディー語、タミル語、英語で歌われました。式の後、お祝いの食事となり、その後、夜には教養プログラムが提供されました。

インド地区は Anbu と Casimeer 両士をマリア会員として心から受け入れ、彼らが自分たちの使命を発展、成長し続けるよう祈ります。



食事を祝福する前に修練院食堂で：Bros. Anbu and Casimeer. (そのすぐ後ろに Sr. Tere Ferre, FMI, Bro. Augustus Surin, Fr. Jack McGrath, Fr. Ignase Arulappen.)



修練院聖堂：Bro. Augustus Surin, Fr. Chinnaiah Polishetty, Fr. Jack McGrath, Fr. Dave Fleming, Bro. Anbu, Bro. Casimeer, Bro. John Paul.

総本部財務委員会がローマで会合



委員会はマリア会員と信徒からなっています。
(左より) **Bro. Ron Overman, SM (USA), Bro. Chola Mulenga, SM (EA), Mr. Luis Paz (ES), Mr. Antoine Hüe (FR), Mr. Paul McDonald (ME), Bro. Michael McAward, SM (GA).**

マリア会の全ての行政単位が財務部に助言する委員会を持つよう要請されているように、財務局長のMichael McAward士も同様な委員会を持っています。本年、委員会は4月10日～13日、ローマVia Latinaで会議を持ちました。彼らは総本部の投資、および、財務部と総本部の仕事に関する内容について話し合いました。彼らの仕事の重要な部分は、2012年の第34回総会の指針に合致するという内容でした。

拡大総長評議員会のローマでの会合

5月5日～7日まで、拡大総長評議員会はローマでその年次総会を開催しました。この会議は総長評議員会のメンバーとマリア会の五つのゾーンの代表者で構成されています。この会議は、それぞれの地域の行政単位の活動を総本部に報告することに加えて、種々の議題に関して総長評議員会の識別を補佐します。今年の会合の主要なねらいは、マリア会の再構築に関する総会の要請に応えることでした。(2012年総会文書, #35)

昨年、この議題に関して各行政単位の評議員会への意見聴取がなされ、またこれまでの総会の決議事項が参照されて、拡大総長評議員会でその結果が検討されました。この検討に引き続き、拡大総長評議員会は、新たな意見聴取として近々

全ての行政単位に送付されることになる提案書の原案を作成する仕事を行ないました。来年のこの会議で、拡大総長評議員会はこの第二回目の意見聴取の結果を検討し、2015年夏に開催される総指導者会議に向けた最終提案を成文化することになります。



1列目(左より): **Fr. Ignace Pagnan (delegate from CAM), Fr. José María Arnaiz (CLAMAR) and Fr. Isao Aoki (ASIA);** 2列目(左より): **Bro. Michael McAward (GA), Bro. Max Magnan (GA) and Fr. Martin Solma (MAR CONF);** 3列目(左より): **Fr. Manuel Cortés (GA), Fr. André Fétis (GA) and Bro. Jean-Marie Leclerc (CEM).**

マリアニスト・シンポジウム：信仰

2012年2月の初めに、6名のマリア会員がローマに集まり、マリアニストコミュニケーションと養成について考察を行なった。彼らはマリアニスト・ヨーロッパ協議会(CEM)メンバーに、信仰年のフォローアップとしてシンポジウム開催するよう提案しました。彼らは更にヨーロッパ・マリアニスト養成センター(CEFM)の規約も入念に準備しました。2014年復活祭の週にこのシンポジウムは実現しました。4月23日から25日にかけて、23名のマリアニスト男女修道者が信仰を深めるその“聖なる三日間”に参加しました。

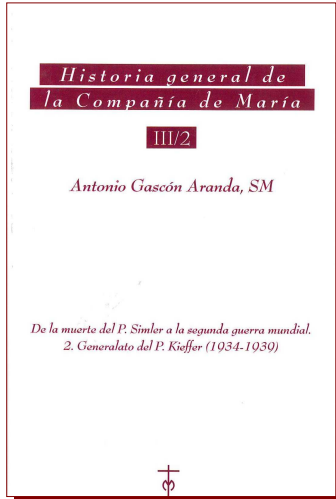


4つの報告と6つの意見書が出席者に彼らの信仰を深めそれぞれの考察を共有するのに大変役立ちました。祈りの時間(朝の祈り、ミサ聖祭、午前、午後の黙想、晩の祈り)と長い休息は個々にとって多くの対話が出来、有意義なものとなりました。

4月25日金曜日午前の終わりに、三名の幹事、Lorenzo Amigo, CEFM議長 Francisco CansecoとAntonio Gascónの両師に繰り返し感謝が表明されましたが、それは養成的で実り多い体験がより多くのマリアニストのためにも継続されるようにとの願望を示していました。



マリア会の通史、 Vol. III/2: キーフエル師の総長在位期間



この巻はキーフエル(François Kieffer)師の総長在位期間(1934-1940)をカバーしています。この期間はその前任者のエルネスト・ソーレ(Ernest Sorret)師の在位期間との連続性の観点から見るべきです。1930年代は政治的、社会的な大変革の時代、また道徳的、経済的危機の年代でした。しかし同時に、教育学が著しい進展を示し、一般の人々の学校教育が大きく前進した年代でもありました。そしてそのことは、政治的暴力、軍国主義、そして独裁主義国家が青少年の教育について教会と対峙していた正にその時代にあつて、マリアニストが自分たちの学校をすばらしく発展させるようにしてくれたのです。

この巻は私たちにキーフエル師の霊的、教育的指針、およびマリアニストのハイレベルな専門的資格を示しています。マリアニストはスペイン、オーストリー、ドイツで迫害を受けていましたが、アルゼンチン、ペルトリコ、ペルー、中国などで新たな宣教の場を開拓しつつありました。

メールアドレス変更

- MX (USA): 唯一の方法として手紙、小包の宛先:

**Comunidad Marianista,
Josefa Vergara 12,
Corregidora, Querétaro,
Mexico.**

下記の住所は利用できなくなっています:

Apartado 119, 76900
Corregidora, Querétaro,
Mexico

総本部からの 最近の通信

- 訃報 # 8-12.
- 4月7日: VOCSM#12 (2014 4月) André Fétis 師、霊生局長から3言語で行政単位責任者全員に送付



総本部日程

- 5月5日～7日: ローマにて拡大総長評議員会
- 5月8日～12日: AF&MAXのアイランド訪問
- 5月20日～23日: MMcのアイランド共同体訪問
- 5月31日～6月15日: 総長評議員会全員でのアルゼンチン地区訪問

